



御殿場

御殿場駅を一寸超えたところで車上最初の地震にいました。汽車が空中を泳ぎ飛ぶかのようにした。…右手の畑にあった大きな石の塔の惨状しているのが眼に入り、そこここに地割れの夥しいことが段々とわかりました。山中の村にもものしく警鐘が響き消防夫や青年団員が右往左往するのでした。
原田實「震災と諸家の感想」(『女性改造』2(10)1923.10)



駿河小山 (紡績工場)

震源に近い神奈川県では海岸が隆起し、大磯では鉄道が脱線し、平塚(馬入橋)では鉄橋が倒壊しました。山間部の丹沢や箱根では地すべりや崖崩れが発生しました。



浦和



大宮

大宮駅に着いて、向うのホームに停車している列車と、その下の人波を見た時、思わずあっと申しました。…余りに大勢の避難者、しかも蟻のように汽車の屋根に取り付いている有様に。太田菊子「無蓋の石炭貨車で罹災者と共に大阪へ」(『婦女界』28(4)1923.10)



川口

赤羽駅も一杯の人だった。駅前の大きなテントには疲れ切った人々が荷に倚って寝ていた。
志賀直哉「震災見舞」(『雨蛙』)

東京

埼玉県では、被害は県の南部及び東部が甚大でした。そのうえ、東海道線・中央線・総武線が不通のため、東京・横浜の避難者が一斉に埼玉県に殺到して混乱を極めました。

東京市では、木造家屋の倒壊、近代西洋建築の崩壊のみならず、地震直後から火災が発生し、風におおられ延焼範囲が拡大しました。その結果、東京市の6割が灰塵に帰し、火災と共に起こった火災旋風により多くの人々が生命を落としました。



箱根

箱根の芦の湖畔のホテルからバスで小涌谷に向かう途中、芦の湯を過ぎてほどなくあの天変に遭ったのであるが、そこから徒歩で崖崩れのした山路を小涌谷の方へ降りながら、まず第一に考えたのは横浜にある妻子共の安否であった。
谷崎潤一郎「東京をおもふ」(『中央公論』49(1)1934.1)



丹沢



平塚 (馬入橋鉄橋)



横浜 横須賀 鎌倉

川崎



鶴見



熱海

静岡県では、熱海と伊東の被害が甚大でした。家屋の倒壊や山崩れが発生し、地震数分後には2回にわたって津波が町を襲い、ほとんどが流失して多数の犠牲者を出しました。駿河小山では紡績工場が倒壊し、大きな被害が出ました。



大磯

大磯にいました。家は破損して、二日間外で過ごしました。
正宗白鳥「震災と諸家の感想」(『女性改造』2(10)1923.10)

小田原



伊東



伊豆半島西海岸、古宇(こう)村、宿屋大谷屋の二階…海面一帯がかすかに泡だつた様に見えて来た。…ほんの二三分の間に、海面はぐっと高まって…向こう一帯の入江にかけて満々と満ちていたが、やがて「ざあ」という音を立つると共に一二町ほどの長さの瀬を作って引き始めた。…此奴は危険だ!
若山牧水「地震日記」(『牧水全集第6巻』)

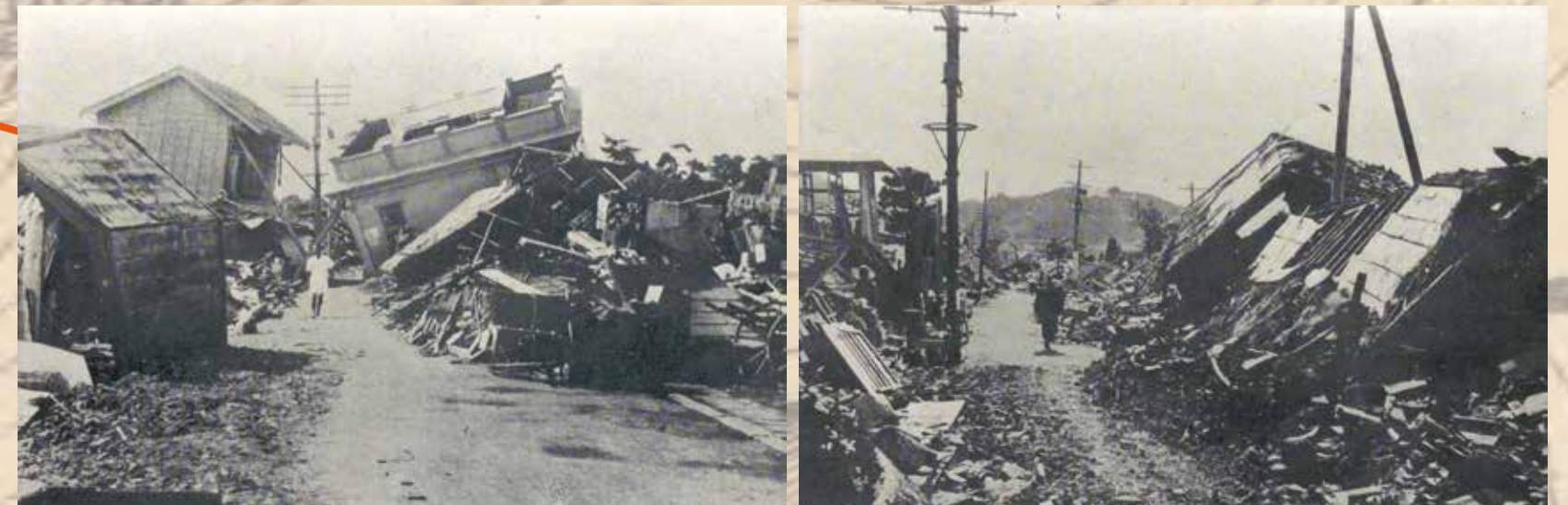
9月1日には小田原小学校で始業式の済んだあと、…ドツと来ると共に学校は潰れてしまった。…出てみると町にはすっかり火が回っていたそう。そこへ津波が寄せ、やがて凄まじい竜巻が起こって、紙片のように人間その他を空中に巻き上げた。
若山牧水「地震日記」(『牧水全集第6巻』)



洲崎

千葉県では、房総半島南部の館山、南房総をはじめ市原・木更津・富津等に被害が集中しました。家屋の倒壊のほか、津波による流失、土砂崩れにより、交通・通信機能が遮断されました。

館山



関東地方の被災状況